

生徒自ら議論投票で改正

私の学校では、伝統的に校則を生徒たちで議論し、必要に応じて規約を改正しています。先生たちは助言で関わりました。



下奥 結さん 日本女子大付属中3年

しもおく・ゆい 2004年生まれ。「自ら考え、自ら学び、自ら行う」が教育方針の日本女子大付属中学校（川崎市）の生徒会で会計を担当する。

対象は、委員会やクラブ活動など学校運営の方法を定めた「生徒自治会会則」。議論は2学期から始まり、クラスごとに規約の内容及表現が現状にあっているかを話し合います。その後、生徒代表が集まって約1週間かけて議論し、必要となったものを全校生徒約750人で投票。昨年は11案中

7案が可決されました。生徒手帳に記載する規約のなかで、放課後に流す下校放送の詳しい時間帯を載せ、文章の「てにをは」を分かりやすく変えました。

1年生の時は、なぜこんなに時間をかけて話し合うのか、不思議でした。でも、学年が上がると「どうすればもっとよい学校になれるだろう」と考えるようになります。みんなが大切にしていると感じるのは「次、入学してくる子たちにとって、より良く、分かりやすい規約に」という思いです。

希望は出せますが、生徒の意見だけでは変えられない校則もあります。スカートは基準ひざ丈といった最低限の制服の決まりや、携

帯電話の持ち込みなどを定めた「生活上のきまり」です。

他校の友達が水泳の練習の影響で傷んだ髪を先生から黒く染めるように言われた話を聞いたたり、「ブラック校則」のニュースを読んだりと「きついな」と感じます。生徒だからといって、なぜ理不尽なルールを押しつけられてしまうのか不思議です。

3年間、議論をしてきて、校則は学校をよりよくするためにあると実感できるようにになりました。変えられる校則も変えられない校則も、芯にあるのは、自立や自主を大切に学校の伝統。どちらも誇りを持って守っていききたいです。